

# 令和2年度 中野区立中野第一小学校 経営計画

学校教育目標	心身ともに健康で知性と感性に富み、自分も人も大切にできる豊かな人間性をもち、時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生き、社会に貢献できる児童を地域・保護者と連携して育てる。		
	考える子	思いやりのある子	元気な子
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	1 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度を身に付け実践する子 2 基礎的・基本的な学力を確実に身に付け、習得した知識・技能を活用できる子 3 運動に親しむとともに、健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む子	目指す学校 (教師像を含む)	児童に 保護者に 地域に 教職員に わたしにプラス！ <b>喜びを生み出す学校</b> 教員一人一人のもてる資質・能力を十分発揮し、 授業力、指導力を結集した学校の組織としての力を高め、 保護者・地域と共に愛され誇りにされ喜びを生み出す学校をつくり、 児童のよりよい成長を促す適切な支援を充実させた教育を実現する。
教育目標を達成するための基本方針	(1) 社会に開かれた教育課程の確立と地域社会と共に教育を推進する学校の構築 (2) 統合を経た新たな学校としてのアイデンティティの確立  【ア 豊かな人間性の育成】 人権尊重の精神を基盤とし、全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度や規範意識を育むと共に自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める。学年間や異学年間（たてわり班）、地域の人々との交流活動や地域の人材を活用した教育活動等を通して、道徳性や豊かな人間性、人間関係形成力を培うとともに、地域で学ぶ児童への一貫した成長支援・育成に取り組む。また、学校いじめ防止基本方針に則り、スクールカウンセラー等との連携を密にしながら全教職員で年間を通して継続的にいじめ未然防止等に全力で取り組む。 【イ 学力の向上】 児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業と評価規準・評価計画による適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習、少人数・習熟度別指導等を通して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。また、言語活動や課題解決学習、体験的な学習の一層の充実により思考力・判断力・表現力等を育成し活用する力を身に付けさせるとともに、学校図書館やICT機器を効果的に活用することにより、学習における言語活動や探究活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める。学びの連続性を捉え直し、スタートカリキュラムの改善や、保幼小中連携グループでのカリキュラム・マネジメントに努める。 【ウ 体力の向上と健康の保持増進】 年間を通して体育朝会や外遊び、オリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組むとともに体育の授業改善に努め、日常的に運動に親しむ資質を育成して体力・運動能力の向上を図る。E S D（持続可能な開発のための教育）を推進し、食育や防災教育の推進、交通・安全指導の徹底により必要な知識等を習得させ健康で活力ある生活を営む実践力を育てる。また、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会の活動を一層活性化させ、関係機関等との連携を取りながら、個に応じた指導ときめ細やかな支援による児童の心身の健やかな成長を図る。 【エ 保護者・地域との連携・協働】 土曜授業・学校公開を実施し、教育活動を保護者や地域に伝え連携を図る基礎を構築することに努める。また、保・幼・小・中連携教育を推進・充実し、保護者・地域との連携・協働を通して、地域を愛し、地域に生きる人間の育成を図る。 【オ 学校における働き方改革】 教職員の心身の健康保持を図り、仕事と家庭を両立し、心身共に充実して働き続けられる「ライフ・ワークバランス」のとれた働き方を実現する。		

## 今年度の重点

	A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	
1	豊かな人間性の育成  自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度、実践する力を身に付ける。	生命や人権等を尊重する態度や規範意識を身に付ける。	「みんなのきまり」を守っている児童の割合を90%以上とする。うち、◎を70%以上とする。 いじめの早期発見、早期対応を図り、事案確認から1か月以内に解決する。 異学年での交流が楽しい児童の割合を、全学年で80%以上とする。 自分を大切にする児童を80%以上、友達を大切にする児童を90%以上とする。 特別支援教育に関する理解を深め、学級経営等に生かす。通常と特別支援学級の児童の交流を図る。
2	学力の向上  保幼との円滑な接続と小中9年間の学習の系統性を踏まえ、小学校における基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。	家庭学習の習慣を確立するとともに、主体的な学び方を身に付ける。	目標時間の家庭学習を行っている児童の割合を85%以上とする。 図書とタブレットそれぞれの活用の良さを理解している児童を80%以上とする。 中野区学力調査レベルのテストにおいて到達度80%の児童を80%以上、50%未満を0とする。 中野区学力調査レベルのテストにおいて到達度80%の児童を80%以上、50%未満を0とする。
3	体力の向上と健康の保持増進  運動に親しむとともに健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む力を身に付ける。	運動に親しむ資質を育成し体力・運動能力を向上させる。 心身の健康について理解し、楽しく明るい生活を営む態度を身に付ける。 安全について理解し、自ら安全に行動する力を身に付ける。	体を動かすことが楽しい児童の割合を85%以上とする。 健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。 健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。 安全に気を付けて生活している児童の割合を90%以上、自転車安全利用五則遵守を95%とする。
4	働き方改革/ライフワークバランス  教職員の心身の健康保持を図り、心身共に充実して働き続けられる働き方を実現する。	教職員の働き方に係る意識改革を推進し、働き方の改善に具体的に取り組む。	事案決定の流れや周知について、各学年等の主任等による代表会を実施し、意見の集約と意思決定のあり方を改善する。 時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間を目標とする。特例の場合においても区の条例施行規則を遵守する。

## 重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

重点	短期経営目標	具体的な方策	評語	具体的な取組に関する指標	評語	成果指標
1 豊かな 人間の 性の 育成	「みんなのきまり」を守っている児童の割合を90%以上とする。うち、◎を70%以上とする。	「みんなのきまり」を指導し、各学級で一か月の振り返りを行い、取組状況の確認と改善点の作成、次の目標を設定しする。	A	3/4（年7回）以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取組んだ	A	きまりを守っている児童90%以上 ◎70%以上
			B	1/2（年5回）以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取組んだ	B	同80%以上 ◎60%以上
			C	毎月児童評価を実施し、児童に活動を振り返らせた	C	同70%以上 ◎50%以上
			D	児童評価が実施できないことがあった	D	同70%未満
	いじめの早期発見、早期対応を図り、事案確認から1か月以内に解決する。	学校いじめ防止基本方針に則り、年間をとおしいじめ未然防止の取組としていじめ防止標語・ポスター作成、あいさつ運動などを行い、いじめ防止を常に児童に意識付ける。児童へのいじめに関するアンケートを年間3回以上実施する。	A	他教員と協同して100%対応した。常にいじめ防止を意識して取組んだ。	A	1か月以内に全件解消
			B	アンケートや発生事案に100%対応した	B	2か月以内に全件解消
			C	アンケートや発生事案に未対応があった	C	3か月以内に全件解消
			D	計画の未実施があった	D	3か月以上の継続指導あり
	異学年での交流が楽しい児童の割合を、全学年で80%以上とする。	たてわり班活動（未来タイム、たてわり遊び等）をできる限り推進する。	A	学級でたてわり班活動を振り返った	A	低80%以上、中80%以上、高80%以上
			B	振り返りで担当班リーダーを指導した	B	低80%以上、中80%以上、高70%以上
			C	工夫して活動を実行できた	C	低70%以上、中70%以上、高70%以上
			D	活動が実行できなかった	D	低70%未満、中70%未満、高70%未満
	自分を大切にしている児童を80%以上、友達を大切にしている児童を90%以上とする。	児童の発達段階や個人差に配慮した適切な指導を実施し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。各児童の道徳振り返りシート等を用いて学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、適切な評価と指導を重ねることにより児童の自尊感情を高める。	A	振り返りシートを活用し、学習状況の把握と自尊感情を高める指導を実施した	A	自分80%以上、友達90%以上
			B	他教諭の授業を参観し、授業改善を図った	B	自分75%以上、友達85%以上
			C	全時間において、道徳科の趣旨に基づいた授業を実施した	C	自分70%以上、友達80%以上
			D	道徳科年間指導計画を確実に実施した	D	自分70%未満、友達80%未満
特別支援教育に関する理解を深め、学級経営等に生かす。通常と特別支援学級の児童の交流を図る。	学校生活支援シートを8月末までに作成する。特別支援教育の手法や合理的配慮を通常学級に取り入れる。特別支援学級児童の特性を理解し、全教職員で支援にあたりとともに通常学級との交流を図る。特別支援教育について、児童に発達段階に応じた理解をさせる。	A	特別支援教育について、児童に発達段階に応じた理解をさせた	A	交流により豊かな人間性が育まれたと感じる児童が70%以上	
		B	通常と特別支援学級の児童の交流を図った	B	全学級が通常と特別支援学級の児童の交流を図った	
		C	教育活動に合理的配慮を取り入れた	C	全教員が合理的配慮を取り入れた	
		D	必要な児童の学校生活支援シートを作成した	D	学校が楽しい児童90%以上	
2 学力の 向上	目標時間の家庭学習を行っている児童の割合を85%以上とする。	家庭と連携した家庭学習強化月間を実施する。年間をとおして学年の家庭学習目標時間に沿った量の毎日の宿題や自主学習について提示する。	A	家庭学習指導を90%以上の日に実施した	A	目標時間達成の児童85%以上
			B	同80%以上実施	B	同80%以上
			C	同70%以上実施	C	同75%以上
			D	同実施70%未満	D	同75%未満
	図書とタブレットそれぞれの活用の良さを理解している児童を80%以上とする。	情報センターとしての学校図書館の機能整備と計画的・効果的な活用、図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施する。また、次年度の年間活動計画を12月までに作成する。	A	図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施し児童にそれぞれの良さを指導した	A	理解している児童80%以上
			B	図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施した	B	理解している児童70%以上
			C	学校図書館の活用計画を確実に実施した	C	理解している児童60%以上
			D	学校図書館の活用計画の未実施があった	D	理解している児童60%未満
	中野区学力調査レベルのテストにおいて到達度80%の児童を80%以上、50%未満を0とする。	東京ベーシックドリルを活用した学習内容の定着と補充指導、ICT機器等を効果的に活用した指導法の工夫改善、区教員の活用や授業改善を実施する。	A	区任短教員と連携して既習事項の補習を行うなどして学力向上を図った	A	80%到達度80%以上,50%未満が0
			B	ベーシックドリルや補充教材を活用して効果的に補習指導を実施した	B	80%到達度70%以上,50%未満が10%
			C	ICT機器を効果的に活用した授業改善に取り組んだ	C	80%到達度70%以上,50%未満が20%
			D	授業改善の意識をもって毎週の週ごとの指導計画を作成した	D	80%到達度70%未満,50%未満が20%以上
3 体力の 向上と 健康の 保持 増進	体を動かすことが楽しい児童の割合を85%以上とする。	体育学習の内容、方法やかかわりの工夫、体育朝会、年間2回設定した体力向上月間を実施する。	A	年間をとおして休み時間の遊びなど体を動かす取組の工夫を行った	A	体を動かすことが楽しい児童85%以上
			B	運動に親しむための授業改善に取組んだ	B	同80%以上
			C	体育学習における児童同士のかかわり方を工夫した	C	同70%以上
			D	体力向上月間の取組を推進した	D	同70%未満
	健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。	校内委員会や金曜日の夕会において児童の情報を共有し、適切かつ効果的な指導を全教職員で行う。心と体の関係についての体験的学習を全学年で実施する。1月を食育・健康教育推進月間として取組を強化する。	A	他教員と協同し、児童への適切で効果的な指導・支援に取組んだ	A	健康に元気に過ごしている児童90%以上
			B	児童への適切で効果的な指導・支援に取組んだ	B	同80%以上
			C	計画を100%実施した	C	同70%以上
			D	計画の未実施があった	D	同70%未満
	学年に応じたSOSの出し方を理解している児童の割合を90%以上とする。	発達段階に応じたSOSの出し方について具体的に指導する。特に、年度始め、長期休業日前は重点的に行う。教員は児童の相談時の言葉や相談を受けとめる時の言葉について知識を身に付け、SOSを敏感に受け止める感覚を養う。	A	重点時期に確実に指導した	A	SOSの出し方を理解した児童90%以上
			B	SOSを敏感に受けとめる感覚を身に付けるために研修・研鑽を重ねた	B	SOSを受けとめる感覚が向上した（教員）
			C	具体的なSOSの出し方を指導した	C	SOSの出し方を理解した児童75%以上
			D	適切に指導できなかった	D	SOSの出し方を理解した児童50%未満
安全に気を付けて生活している児童の割合を90%以上、自転車安全利用五則遵守を95%とする。	安全指導計画に則った指導を確実に実施する。	A	安全について、年間を継続して意識をもって児童に適切に指導した	A	安全に気を付けて生活している児童90%以上,自転車安全95%以上	
		B	学年で共有化した指導を行った	B	同85%以上、同90%以上	
		C	学校安全計画に基づく指導をほぼ100%実施	C	同80%以上、同85%以上	
		D	学校安全計画に基づく指導ができなかった	D	同80%未満、同85%未満	
4 働き方 改革	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間を目標とする。特例の場合においても区の条例施行規則を遵守する。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図る。	A	月45時間以下が10か月以上、年間では360時間以下	A	ライフ・ワークバランスに改善があったと感じる教職員が80%以上
			B	月45時間以下が8か月以上、年間では360時間以下	B	同75%以上
			C	月45時間以下が6か月以上、年間では360時間以下	C	同50%以上
			D	月45時間以下が4か月以上、年間では360時間以上	D	同50%未満